

クロスロードゲームにおける 語り継ぎに関する研究

田中 尚人¹・坂井 華海²

¹正会員 熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授

(〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1, E-mail: naotot@kumamoto-u.ac.jp)

²学生会員 熊本大学大学院 自然科学教育部 博士後期課程

(〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1, E-mail: hanamisakai54@gmail.com)

高齢社会を迎え、国際的な気候変動や頻発する災禍のなか、持続可能な地域を運営していくために、地域の風土に根差した知恵や暮らしの工夫を継承することは有用である。本研究では、防災教育や事前復興の現場などで用いられるクロスロードゲームに着目し、対話を重視し、日常と非日常とを繋ぐ追体験を可能とする記憶の継承について考察した。本研究の目的は、クロスロードゲームの作問における語り継ぎの場の構造を明らかにすることである。研究対象地は、近年様々な災禍を経験してきた熊本県熊本市、菊池市、あさぎり町の3市町とした。研究の結果、クロスロードの問題の主題となるジレンマは自分自身が抱えるものと他者を含むもの、そのジレンマが受動的／能動的に生まれたか、という違いが読み取れ、これらは、他者の経験も含め誰もが追体験可能なジレンマとして継承される可能性が示された。

Key Words: re-storying, memory transference, crossroad game, sustainable, resilience

1. はじめに

(1) 研究の背景

高齢社会を迎え、国際的な気候変動や頻発する災禍のなか、持続可能な地域を運営していくために、地域の風土に根差した知恵や暮らしの工夫を継承することは有用である。2016年4月に発生した熊本地震から6年が経ち、記憶の風化が顕著にみられる。忘れてしまいたい記憶もあるだろうが、次の災害に備えるため、当事者しか知りえない被災の経験や復興の知恵など、他者や次世代に継承することは有益である。他者はおろか自分の経験でさえも言語化することは難しく、災害からの学びを教訓として継承することは重要であるが「自分ごと」として持続可能な学びとすることが重要である。

本研究では持続可能性 (sustainable) を「変わり続けること」と考え、そのためには不易流行の「不易」に当たる地域の風土に根ざし、地域コミュニティに受け継がれてきた実践知を、変化の激しい環境や社会情勢の変化に合わせてアップデートしていく「流行」の両方が大事である、というスタンスをとる。Resilience は Sustainable の駆動力と言え、硬直化した社会の当たり前を揺さぶり、過度に変化する環境の変化を適切なものにする抵抗力ともなる。本研究では、防災教育や事前復興の現場などで

用いられるクロスロードゲーム (以下、CR と略) に着目し、対話を重視し、日常と非日常とを繋ぐ追体験を可能とする記憶の継承について考察した。

(2) 研究の目的

本研究の目的は、CR の作問における語り継ぎの場の構造について明らかにすることである。研究対象とする CR を作問してもらったワークショップ (以後、WS と略) は、熊本地震や令和二年7月豪雨災害、そして新型コロナウイルス感染症など、様々な災禍を経験してきた、熊本県あさぎり町、菊池市、熊本市の3市町にて、2020年から2021年にかけて実施した。

2. 研究の視点

(1) 基礎的概念の整理

a) シビックプライド

本研究では、記憶の継承に付随する重要な概念として「シビックプライド」の概念を用いる。シビックプライドは伊藤ら^{1) 2)}が「都市に対する市民としての誇り」と定義している。これまでシビックプライドに通ずる地域愛着の形成要因に関わる知見が蓄積^{3) 4)}されており、

地域理解が地域愛着の醸成について重要な役割を果たすことが指摘されている⁵⁾。本研究では、シビックプライドを「市民が地域や都市に対して持つ、愛着や誇り、自負」と定義する。

b) ナラティブ

ナラティブとは「物語、語り」と訳される概念であり、野口⁶⁾は「具体的な出来事や経験を順序だてて語る行為、および、その産物を同時に表す言語行為の一形態」と定義し、行為としての「語り」と、産物としての「物語」を使い分けている。やまだ⁷⁾はナラティブと互換的に用いることが多いとし、「物語」を「二つ以上の出来事を結びつけて筋立てる行為」と定義し、行為として注目している。河合⁸⁾も「何かと何かをつなぐ役割をもっているとともに、何かと何かがつながることから生まれてくる」としている。ナラティブ（物語、語り）は「つなぐ」ことに本質があり、産物としての「物語」だけでなく、出来事をつなぎ「経験を組織化し、意味づける行為」⁹⁾として重要と言える。

c) アクションリサーチ

本研究では、研究者と当事者（WS 参加者）との協働の実践により展開されるという点で、アクションリサーチ¹⁰⁾¹¹⁾の側面を持つ。矢守ら¹²⁾や宮本ら¹³⁾の研究では、当事者が地域の問題解決ために研究者と協働するとき、独特の複雑性が存在すると指摘している。宮本はそれを「アクションリサーチのパラドクス」と定義している。

本研究では、誰もが記憶の継承者として語り直す場としてクロスロードの作問に着目し、物語る際の実践知に着目している。矢守は『「Days-Before」の語りに関する理論的考察』¹⁴⁾において、被災者が災害が起こった前日について語り直す『一日前プロジェクト』に触れ、災害前の日常を語り直す重要性を指摘しているが、もちろん、過去から現在までの歴史を知ってしまっている自分にとって、過去の自分は自分ではなく、他者と言える。語り直しは、当事者にとっても過去の自分という他者との協働実践による実践知の獲得である。

(2) 語り直しの定義

本研究では、語り直しを「何かを契機として、自分や他者の体験を言語化し伝えること」と定義した（図-1）。「言語化し伝える」ためには、語り直しの主体（語り手）にとって語り直す記憶や経験が誰のものであっても、相手に伝わるように客体化して物語化することを意味する。語り直しは、語り手と聞き手の協働行為である。過去の自分の記憶や経験を語り直す場合でも、他者と同様に協働実践として取り扱うことが可能である、と考えた。

語り直される記憶や経験には、他者との経験や共通体験として得た内容も含まれ、自らの経験以外も含まれて

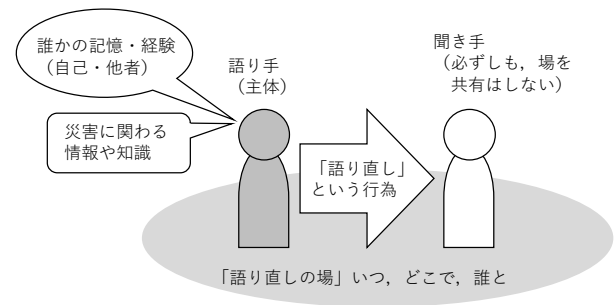


図-1 語り直しの場のイメージ

いる。語り直しは、その時、その場所で誰との共通体験なのかによって記憶が構築され、語りが変化するとと言える。長田¹⁵⁾の場の定義を参考に、本研究では語り直しの場を、時間、空間、人間（仲間）の三つの間によって構成されるとした。

3. クロスロード作問ワークショップの概要

本章では、クロスロードを解説した後、クロスロード作問ワークショップを説明し、作問結果を示した。

(1) クロスロードゲーム

クロスロードゲームは、阪神・淡路大震災時に災害対応に当たった神戸市職員へのインタビューをもとに作成されたカードゲーム形式の防災教育教材である。2004年に矢守らのチームによって作成された。CRは災害時の様々な局面で経験される「あちらを立てれば、こちらが立たず」というジレンマを素材として作成されている。

CRは、プレイヤーが誰でもジレンマを「自分ごと」として受け取ることができるように、抽象度を高めるため記述方式に統一性を持たせている。記述内容は、①意思決定者の立場、②100文字程度で抽象的な状況を描写する本体部分、および③YES/NOの2つの行動選択肢である。ゲームの参加者は、カードに書かれた設問を自らの問題として考え、二者択一の設問にYESまたはNOのカードを示してから、答えを選択した理由を同じグループのメンバーと共有する。この設問には一般的には正解はないとされ、それにより災害対応を自らの問題としてアクティブに考えることができ、かつ自分とは異なる人々の意見や価値観にも気づくことができる、という特徴を有する。

矢守¹⁶⁾によると2004年に作成されたCR神戸編以降、中越地震や東日本大震災の体験をベースとしたものや、感染症対策や学校安全対策、さらには生活環境問題など当初の守備範囲であった自然災害に対する防災とは異なる課題について扱ったものが作成されている。

(2) ワークショップの実施概要

WS の実施地は熊本県内のあさぎり町、菊池市、熊本市とした。熊本市は「熊本地震の被害を大きく受けた中核都市」、菊池市は「熊本地震で被害があったものの被害が大きくなかった地方都市」、あさぎり町は「熊本地震については被害が少なかったものの、令和 2 年 7 月豪雨も起こった中山間地域」であることを考慮して対象地とした。WS の対象者は、熊本地震の被災経験の有無に関わらず幅広い年代、属性を考慮することで、語り直しの内容の聴取や語り直しの変化を総合的に分析することができると考えた。以下に、対象地の概要と対象者の属性を述べた。

a) あさぎり町

あさぎり町では、2020 年 10 月 19 日に 12 名（全員あさぎり町にて熊本地震を経験）、2022 年 1 月 14 日に 5 名（4 名があさぎり町にて、1 名が玉名市にて熊本地震を経験）のあさぎり町役場の保健・福祉部局職員を対象として WS を実施した。

b) 菊池市

菊池市では、2020 年 11 月 24 日に菊池市役所職員 15 名（3 名は熊本地震以降に入庁）を対象として、2022 年 1 月 6 日に菊池市中央図書館職員 6 名（1 名は熊本地震を経験していない）を対象として WS を実施した。

c) 熊本市

熊本市では、2020 年 10 月 30 日に熊本市役所職員 5 名（2 名は熊本地震以降に入庁）を対象として、2021 年 12 月 4 日にくまもとクロスロード研究会（2017 年 5 月 16 日に発足）のメンバー 5 名（5 名中 4 名は熊本地震を経験しており、1 名は熊本市内では熊本地震を直接経験していない）を対象として WS を実施した。

(3) クロスロードの作問

a) 作問方法の説明

事前アンケートの記入後、CR を 3 問程度プレイしてから、図 2 を示し、熊本地震を契機とした記憶や体験に関する問題を作成して頂いた。

あなたは・・・72歳の農家 ①「立場」を決める

②本文は100文字ぐらい

中山間地の棚田で、お米と自分たちで食べる野菜を作っている。地震で緩んだ地盤が雨季の豪雨で崩れ、田植えしたばかりの田んぼに土砂が流入してしまい、今年は稲作を諦めざるを得ない。都心に住む会社員の息子は「こっちで同居しないか?」と言ってきている。あなたは、農家をやめますか?

④伝えたいこと「ジレンマ」がある

YES(やめる)

OR

③YES/NOの2択
NO(やめない)

図-2 クロスロード作問時の説明資料

表-1 2020年度クロスロード作問データ

番号	テーマ	性別	年齢	属性	あなたは	問題
1	市長が感動判断	男	55	あさぎり町役場職員	あさぎり町の町長	令和X年7月豪雨災害が発生しました。(令和2年7月豪雨(熊本・大分)あさぎり町の被害)1ヶ所、重要施設1ヶ所が避難できず職員及び利用者を取り囲まれました。救出手段はリフトのみ。残された時間は限られています。どちらが救助しますか?
2	マスク買い占め	女	30	あさぎり町役場職員	(一般人)	あなたは今、手持ちのマスクの残量が少なく、買おうと考えています。地元にもコロナの感染者が出たと発表されており、危機感が高まっています。お店に行く、購入の順番が回っていません。どう買いますか?
3	復興支援の命令	女	47	あさぎり町役場職員	47歳の自治体職員	1年間の被災地の復興のために派遣の命令が出ました。子供の育児や介護のお金が減ります。辞めたいと思いませんか?
4	父の葬儀	女	47	あさぎり町役場職員	45歳の女性	父親が亡くなりました。私の妹は東京にいます。親戚も沖縄にいます。お葬式のためにみんな帰省したいと思っています。しかし我が家には高齢者や小さい子供がいます。帰省することに同意しますか?
5	息子を避える	男	50	あさぎり町役場職員	46歳の男性	熊本市内へ4月に異動して勤務していた息子が熊本地震で被災し、避難所生活を途中で不安な日々を過ごしている状況が続いており、他の避難所長から不適当な道も誘導されているので、息子を避えていますか?
6	勉強/ボランティア	男	23	あさぎり町役場職員	20歳の学生	熊本地震で学校が休校になりました。しかし、被災地を支援しなければなりません。でも他の周りの子は被災地へボランティア活動に参加しています。ボランティア活動に参加しますか?
7	認知症予防教室	女	33	あさぎり町役場職員	介護予防担当	コロナにおいてハイリスクである高齢者のことを考える面を避けなければいけないが介護予防教室をしないと、筋力が落ちたり認知症が進行するリスクが高まる。教室を実施するか?しないか?
8	保健師派遣依頼	女	45	あさぎり町役場職員	保健師	被災地から一時的な派遣依頼があり(毎日2名ずつ数ヶ月にわたって)、保健師の派遣依頼が出されています。あるかしらないか?、どのくらいの期間になるかわからない。行くかどうか?
9	マスク配布	女	45	あさぎり町役場職員	健康推進課長	防災用に備蓄していたマスク6万枚を町民に配布するか?(今後マスク購入の見込みはない)
10	マスク管理	女	45	あさぎり町役場職員	健康推進課長	保健課長から防災用のマスクの管理を命じられた。今後、本課で買受けて使うかどうか?
11	大規模災害発生	男	47	あさぎり町役場職員	防災担当(自治体)	妻と2人暮らし。震災7の大規模で、妻が家を壊して大怪我。消防救助も来ない。復旧が速いと思いませんか?
12	自分の食料を配布	男	47	あさぎり町役場職員	避難所にいる避難者	自分は30分の食糧・水を消費しているため持ち替えて、周りの方はほとんど手ぶらで来ていた。支援物資もいつ届くかわからない。あなたは食料を皆に分け与えますか?
13	軽度の精神障害	男	54	あさぎり町役場職員	避難所運営担当者	軽度の精神障害者が多くいらっしゃる施設から避難所に避難されてきた。大規模な災害で、避難所は1ヶ所のみしか避難所ではありません。他の避難所からの苦情が多く、施設の方をどこかの場所に移動してこれと言っています。あなたはどのように対応をせよとおもいませんか?
14	避難所開設	女	54	あさぎり町役場職員	自治体職員	決められた避難所1ヶ所しか開設されていませんが、他の避難所には、住民の方が溢れて来ています。その開所を開設しますか?
1	飲食店営業再開	男	39	菊池市役所職員	飲食店経営者(従業員あり)	コロナウイルス感染拡大により、営業の自粛要請が出されました。お店の固定費50万円/月かかります。あなたは営業再開しますか?
2	子ども食堂/配分	男	39	菊池市役所職員	子ども食堂の代表	毎日のご飯に困っている子どもが40人(5-10歳)程度です。コロナ禍でスタッフが少ない中、30人しか作れません。あなたはどのように対応しますか?
3	3歳の子ども避難	男	33	菊池市役所職員	3歳の子どもの父親	避難所が狭く、3歳の子どもが避難所を歩きたいと言っています。でも避難所にはおむつがない状況です。子どもは泣きます。避難所に行きますか?YES:避難所/NO:帰宅
4	子ども会再開	男	33	菊池市役所職員	子どもの会役員	被災から1ヶ月が経ったがまだ避難所生活をされている子どももたくさんいます。2週間後は、区の子供会での焼き内会を予定しています。予定通り実施しますか?
5	避難所活動再開	男	36	菊池市役所職員	自身の30代後半の自治体職員	熊本地震から1年の大災害が発生し、職場から求められれば、1週間泊り込んで、仕事しますか?
6	観光客呼び込み	男	36	菊池市役所職員	観光課の職員	コロナで観光客がいない人がいる。しかし、市内にコロナウイルスを持ち込む危険がある。それでは観光客を呼び込みますか?
7	避難所の受け入れ	男	40	菊池市役所職員	災害支援担当で庁舎にいる職員	被災直後の駐車場で車イスに乗せた要介護者を車イスが20人くらいで自分の部屋に詰め込みました。被災直後で庁舎はまだ職員がいません。また後援の庁舎の安全性もわかりません。庁舎の周りの民家は火災や全壊などありますか?
8	大災害発生	男	26	菊池市役所職員	人暮らしの就活中の学生	実家は壊ろうと思はざるを得ない状況です。大災害が起きた場合、実家に帰りますか?
9	公民館休館	男	26	菊池市役所職員	公民館の館長	コロナの感染状況が悪化しています。休館しますか?
10	支援物資を運ぶ	男	31	菊池市役所職員	支援物資保管所の担当	支援物資は役所の倉庫に配布することになっているが、物量の多い場合は別の倉庫に預けている。物資がいろんなところから搬入されているのを見ると物資をくるとはめんどくさい。説明しても聞かない。あなたは物資を運ぶますか?
11	子どもマスク	男	31	菊池市役所職員	保育所園長の親(1歳から2歳くらい)	子どもを公園に遊びに行きました。子どもはまだマスクをしないでも良いとされています。しかし、言うことを聞かぬ年齢でもありません。遊んでいる子どもが近くにいる別の知らない子どもと接触してしまいました。あなたは、自分の子どもがマスクをしないまま公園に行くのを許しますか?YES:マスクをしないまま公園に行く/NO:マスクをしないまま公園に行くのを許しませんか?
12	自治体貸付企業内	女	39	菊池市役所職員	生活支援担当自治体職員	貸付先が「一戸建て」と告知が確定されなかった。たまたま住む借家はグループをかけるなどの緊急避難措置の取組が、要を待たずに、資金が全くないという0世代の女性(一人暮らし)の方が何かの支援をなくしに相談に来ました。自治体の貸付企業内で行うか行わないか?
13	被害調査対象定立候補	男	31	菊池市役所職員	入庁2年目の職員	大規模災害が発生し、被害調査の対象を認めることになった。被害調査は自分が担当する役割の担当であり、その課から経験的な責任者として1人出さなければならない。あなたは立候補しますか?
14	7人のイベント参加	男	20	菊池市役所職員	20代前半の社会人	被害調査を受けているが外出先で感染しているが、今自分が一番好きな女性(恋人)のイベントが家のすぐ近くで行われるらしい。ファン人が多く、お集まって来ているが感染対策が行われている。そのイベントに行くか行かないか?
15	GOTOで旅行	男	43	菊池市役所職員	医療従事者	コロナの感染が早く、GOTOトラベルが実施されています。日々の業務で忙しくする中、友達からGOTOトラベルで旅行のお誘いがあります。完全個室で、他の客と接触しない施設のこと。あなたは旅行に行きますか?YES:旅行/NO:旅行に行きませんか?
16	水10リットル配布	男	41	菊池市役所職員	避難所の担当職員	被災地の避難所が、市販のペットボトルの水が不足している状況です。水10リットルを配布したいと言われた。支援物資は次々に届いているようですが、その量は足りていない。市民も並ばれている状況で、配布しますか?
17	3歳の子供エレベーター避難	男	48	菊池市役所職員	3階のマンションに住む3歳の子供の父親	マンションが全壊し、エレベーターは停止。唯一の避難経路である階段までの道は切断され、危険な状況です。あなたは、エレベーターの復旧を待ちますか?
18	旅行をすすめる	女	20	菊池市役所職員	行政職員	感染対策を上げる取り組みを自ら行っていますが、感染拡大も怖いです。でも旅行を勧めますか?
19	GOTO使って旅行	女	41	菊池市役所職員	20代の会社員	自分の友人である観光客がGOTOトラベルで旅行に行きました。しかし、国内・市では感染対策としてGOTOトラベル(トラベルイット)事業が行っています。感染対策をきちんとしている地域であればあなたは行きますか?
20	鼻炎で受診	男	18	菊池市役所職員	ひびいたアレルギーの鼻炎で苦しんでいる	症状がともやみで病院に行きたいのですが、住んでいる地域ではコロナ感染者が増加しており、外出することはリスクが伴います。特に、耳鼻科等は感染リスクが高い。コロナ感染者と接触する可能性が高いです。病院を受診しますか?
21	交流団体の派遣	女	36	菊池市役所職員	決定権を持つ人	母子連帯ある友好都市で毎年交流団体を派遣しています。今年も派遣する予定で、すでに派遣先が決定しています。しかし、派遣する前に、熊本県内で初めてコロナの感染が確認されました。早知して交流団体を派遣しますか?
1	風邪で避難所へ	男	36	熊本市役所職員	風邪を患っている人	咳がゴロゴロ、地震、家には全く風はなく避難所の方に市販薬が置いてある。(薬局も閉まっている)自宅は水・電気・ガスが止まっている状況。避難所に行くか?
2	PCR検査受診	男	36	熊本市役所職員	隣居者との接触者(濃厚ではない)	明日、1年間の準備してきたプロジェクトの集大成で責任者。99%感染はしていないと自覚しているがPCR検査を受けるか?
3	生活再建のため休職申請	男	34	熊本市役所職員	被災地の自治体職員	あなたは自身も居住地に被害を受けている。震災対応業務を携わっており、生活再建の支援を必要としている。休職の申請を行いますか?
4	遊びに誘われた	男	34	熊本市役所職員	コロナ拡大前の自治体職員	コロナ拡大前の同僚から、休日に遊ぶか誘われていた。感染対策をしっかりとっていると言っているが、誘いに応じますか?
5	保育所閉鎖	男	46	熊本市役所職員	保育所の園長	地震で園内が壊れた多量な被害を受けています。保育所を閉鎖しますか?
6	自治活動の再開	男	46	熊本市役所職員	地域の自治会会長	感染症予防のための集客が求められています。保育所を閉鎖しますか?地域活動が再開し、地域住民同士の関係がギスギスしています。自治活動を再開しますか?
7	男子避難所入居候補	男	29	熊本市役所職員	家族持ちの会社員男性	片側は自宅に避難所を運営する人を選んでいるが片側は一人暮らし。再び地震が起こった時を考えると家族と一緒に過ごすのがいい。あなたは避難所に入居しますか?
8	コロナ受診	男	29	熊本市役所職員	自治体職員	昨夜から熱が続いておりもしらからコロナかもしれない。しかし、自分の仕事が繁忙期であり、自治体の感染率は0、感染者が出ればそのフロア閉鎖しなければならぬ。その状況であなたは、病院を受診し、コロナ検査を受けるか?
9	中学生を帰宅させる	女	45	熊本市役所職員	40歳の公務員	災害が発生したため、地震に引き続き中学生の子どもの帰宅を促しています。電話で「帰りたい」と言ってきました。帰宅させますか?

- ①まず「意志決定をする立場」を決める。
- ②本文として、100文字程度の伝えたい「ジレンマ」を記述する。
- ③最後にYES・NOの二択を決める。

表-2 2021年度クロスロード作問データ

番号	テーマ	性別	年齢	属性	あなたは	問題
1	看護師のパートナーへの配慮	女	42歳	あさぎり町役場保健師	看護師	勤務している病院では、地震の時、何人以上の時は病院に出るわけには行かないという話を聞いていました。地震があった時（ニュースを見るまで出勤しなれないという想定でした）は自宅パートナーと保育園に通う子供を送っている時でした。パートナーも、緊急時には、職場へ出て行かなければならないともあります。あなたは、勤務先の病院に出動しますか。YES（出勤する）/NO（出勤しない）
2	普通食以外の配布	女	52歳	あさぎり町役場保健師	食料配布担当者	備蓄の食料が、避難者人数分不足になって、アレルギーや特別食等は多く余っている状況だった。その時、普通食以外の分も配布してしまおうか？しばらくは、食料が入ってこない状況の場合（場所的に支給が困難）、YES（配布する）/NO（配布しない）
3	親の安否確認	女	50歳	あさぎり町役場保健師	遠方に住んでいる子供	自分の実家が震度5だった。娘に何度も電話をかけるが繋がらない。実家までは帰るのに時間がかかる。1人暮らしの娘は80代だが元気でいる。役所に安否確認のための電話をかけますか。YES（役所に電話をかける）/NO（役所に電話をかけない）
4	友人のもとへ	女	24歳	あさぎり町役場保健師	大学生	大きな地震の後、余震が続いています。他県からきた一人暮らしの友人から「おいでよ家に来てほしい」と連絡がありました。あなたは友人の家に行きますか？YES（行く）/NO（行かない）
5	子を持つ保健師への配慮	女	46歳	あさぎり町役場保健師	役場の保健師	被災後、夜間も交代制で緊急対応として夜の勤務が継続している。夜間はほとんど小さな子供のいるスタッフははずしてある。しかし、自分たちも帰る出で出ている。小さな子どもをもつ保健師からも「自分も交代制が可能」と言ってくれている。今後、シフトに小さな子どもを持つ保健師も入れようかとスタッフたちに提案するか？YES（提案する）/NO（提案しない）
1	アパートへ転居	男	49歳	菊池市中央図書館	70歳の年金受給者	あなたは、親から譲り受けの家で独りで暮らしています。近くにスーパーはなく、車の免許もありません。地震で半壊した家に住み続けるのが不安なため利便性の良い場所へアパート暮らしをしようと思っている。
2	高校の避難所受け入れ	男	58歳	菊池市中央図書館	避難所の責任者です	大規模な被災想定されている避難所に10名程度の避難者がお入りしています。他の避難所の人員のとき、残りの人も受け入れられますか。YES（受け入れる）/NO（受け入れない）
3	自分は避難、家族は家に	男	50歳	菊池市中央図書館	普通の家族の一人	自分は避難したが、家族は家にいたい。どうしますか。
4	自宅再建	男	62歳	菊池市中央図書館	76歳の一人暮らしの女性	熊本地震で、自宅が半壊し住めなくなりました。建築士の見立てでは、土台や基礎はしっかりして再建は可能だが、500万円の費用がかり、工事は半年以上はかかるということです。あなたは、家を新築しますか。
5	お母さんお預け	女	53歳	菊池市中央図書館	母と2人暮らしの60代女性	地震後、大きな地震が連続している。学校も被災地に住民の避難先か「お母さんをお預けするよ」と声がかかった。母は預けているのが迷っている様子。あなたは預けますか。YES（預ける）/NO（預けない）
6	父を避難所へ	女	29歳	菊池市中央図書館	50代の主婦	家は足腰の弱った父がいます。水もガスも止まり、復旧の目途がつかない状況ですが、父は避難所へ行きますか。あなたは、無理にでも避難所へ連れて行きますか。YES（連れて行く）/NO（連れて行かない）
1	高校生ボランティア	男	54歳	CR2K	高校生	被災後、通学している高校が休校となりました。被災地では大きな損害を受けながらも、ボランティア活動が再開され、参加する機会がありました。被災地へボランティアに行きますか？YES（行く）/NO（行かない）
2	コロナとボランティア	男	44歳	CR2K	災害ボランティア	被災者が起る被災地に支援に入ろうと考えている。ちょうど、新型コロナウイルス流行しており、医療従事者として、働く職場からは「ボランティア活動は控えるように」と言われている。お世話になった方々が多くなる被災地に感謝したいと思っている。こっそり被災地に支援に行きますか？YES（行く）/NO（行かない）
3	避難所の呼び寄せ	男	50歳	CR2K	避難所の運営者	地震後2週間、この避難所はだんだんと避難者が減ってきた。よその避難所はまだ避難者が多く大混雑していると思う。あなたは、よその避難所へお誘いして避難するように呼び寄せますか？YES（呼び寄せる）/NO（呼び寄せない）
4	ボランティアの継続	男	50歳	CR2K	ボランティア団体の長	被災地の様子は、復興を手に回し続けて5年。通常の仕事に忙しなくなった。家族からも「いつまで、そのボランティアを続けるつもりなの？」とまっく言われるようになってきた。あなたは「ボランティアの団体の長」をやめますか？YES（やめる）/NO（やめない）
5	子連れ出勤	女	28歳	CR2K	中学校の教員（子持ち男性）	学校が避難所となり、4ヶ月運営しなければなりません。日夜交代で学校にいけないなりません。同僚教員の中には、単身で子供を連れてきてほしいという相談を受けています。貴校の避難所長は、子供を連れてくるよう希望されました。子供を連れて学校に行くか行かないか？YES（連れて行く）/NO（連れて行かない）

b) 作問ワークショップの結果

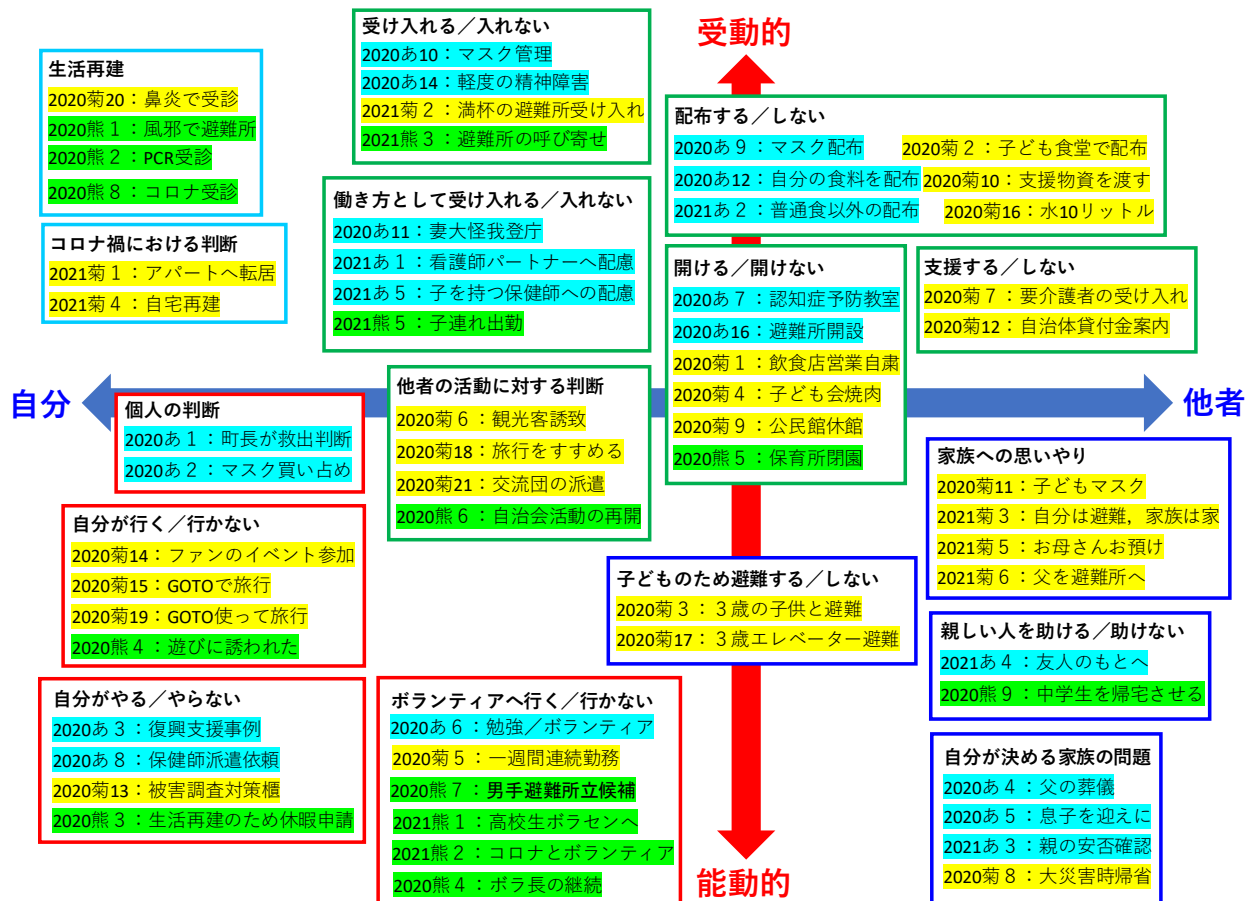
WSの結果として、表-1、表-2に示した通り、2020年度は、あさぎり町：14問、菊池市：21問、熊本市：9問、2021年度は、あさぎり町：5問、菊池市：6問、熊本市：5問のCRの問題が作成された。

4. クロスロードの作問にみる語り継ぎの場に関する考察

本章では、クロスロード作問ワークショップの成果として得られた60問の問題、語り直された記憶や経験の内容を分析し、語り継ぎの主体と場との関係性について考察した。

(1) クロスロード作問内容の分析

本研究の執筆者2名と、当研究室の大学院生の3名で、60問のCRの問題をカード化し、KJ法を行った。似通った問題をまとめるラベル（小見出し）として、以下の16個が得られた。



凡例：年度・実施場所・番号：テーマ

図-3 クロスロード作問内容の分析図

- ①配布する／しない
- ②支援する／しない
- ③開ける／開けない
- ④受け入れる／入れない
- ⑤働き方として受け入れる／入れない
- ⑥他者の活動に対する判断
- ⑦生活再建
- ⑧コロナ禍における判断
- ⑨家族への思いやり
- ⑩親しい人を助ける／助けない
- ⑪自分が決める家族の問題
- ⑫子どものため避難する／しない
- ⑬個人の判断
- ⑭自分が行く／行かない
- ⑮ボランティアへ行く／行かない
- ⑯自分がやる／やらない

熊本地震から4年と5年目に作成された CR の問題は、熊本地震を主題に作成されたものが多いが、2020 年の新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延以降、災害時や復興時とは逆の対応が求められることが多くなり、社会的な孤立やつながりの喪失が問題となっており、それらを主題とする作問も見られた。

(2) 語り継ぎの場に関する考察

16 のラベルについて、語り継ぎの主体（クロスロードの問題においてジレンマを抱える主体）と、その場（ジレンマを生むシチュエーション）について考察した結果、ジレンマを生む状況が、自分自身によるものと他者を含む状況にあるものの傾向が読み取れた。また、その状況に対して、能動的に行動する際に生まれるジレンマと、受動的に判断を迫られるジレンマを読み取ることができた。これらの考察結果を整理したものが、図3である。

「自分⇔他者」、 「能動的⇔受動的」の二軸で考察すると、i) 他者を含む社会からの要請に対して受動的に生まれるジレンマ（緑色の枠）、ii) 災害または、コロナ禍に対して受動的にも能動的にも対応を迫られるジレンマ（水色の枠）、iii) 他者のために能動的に対応するジレンマ（青色の枠）、iv) 自分ごととして能動的に対応するジレンマ（赤色の枠）の4つのカテゴリーに分けることができた。

5. おわりに

(1) 研究のまとめ

研究の結果、クロスロードの問題として主題となったジレンマには、自分自身が抱えるものと他者を含む関係

において生まれたものによって違いが読み取れた。また、そのジレンマが受動的に生まれたか、能動的に生まれたかによっても、場としての違いが読み取れた。

これらのジレンマは、作問時に本人または他社の経験が抽象化されることから、他者の経験も含め誰もが追体験可能なジレンマとして継承される可能性が示された。

(2) 今後の課題

個別の問題と、そのジレンマが発生した場について考察することで、実践知として継承していくべき記憶や体験が明らかになると考える。誰もが被災者になる可能性が高まっている現代において、過去に経験した誰かの記憶の継承することが、自分も含め、未災地の誰かの幸せを守ることに、事前復興につながると言える。

謝辞：本研究には、様々な先達や、熊本においてクロスロードの作問 WS に参加して下さった、あさぎり町、菊池市、熊本市の皆様、特にくまもとクロスロード研究会の皆様にたいへんお世話になった。記して感謝の意を表する。

参考文献

- 1) 伊藤香織・紫牟田伸子（監修）、シビックプライド研究会著：「シビックプライド—都市のコミュニケーションをデザインする」、宣伝会議, 2008.
- 2) 伊藤香織、紫牟田伸子（監修）、シビックプライド研究会著：「シビックプライド2【国内編】—都市と市民のかかわりをデザインする」、宣伝会議, 2015.
- 3) 鈴木春菜、藤井聡:地域愛着が地域への協力的行動に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・論文集, Vol.25, No.2, pp.357-362, 2008.
- 4) 田中尚人・堀尾和美：「小学校地域学習におけるシビックプライド涵養に関する実践的研究」、実践政策学, Vol.2, No.1, 2016.
- 5) 羽鳥剛史:地域コミュニティにおける離脱と発言に関する研究—A・O・ハーシュマンの離脱・発言理論の示唆—, 日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol.46, No.3, pp.991-996, 2012.
- 6) 野口裕二（編）：ナラティブ・アプローチ, 勁草書房, 2009.
- 7) やまだようこ（編）、人生を物語る：生成のライフストーリー, ミネルヴァ書房, pp.1-38, 2000.
- 8) 河合隼雄：心理臨床における「物語」の意義, 精神療法 27, pp.3-7, 2001.
- 9) Bruner, J. Acts of meaning. Harvard University Press, 1990.
- 10) 矢守克也：アクションリサーチ実践する人間科学, 新曜社, 2010.
- 11) 矢守克也：アクションリサーチ・イン・アクション 共同当事者・時間・データ, 新曜社, 2018.
- 12) 矢守克也・李勇昕:「Xがない, YがXです」—疎外論からみた地域活性化戦略—, 実験社会心理学研究, Vol.57, No.2, pp.117-128, 2018.

- 13) 宮本匠:アクションリサーチの主体性形成について : 新潟県中越地震の復興過程から, 人間福祉研究, Vol.8, No.1, 2015.
- 14) 矢守克也・杉山高志: 「Days-Before」の語りに関する理論的考察, 質的心理学研究, 第 14 号, No.14, pp.110-127, 2015.
- 15) 長田英史: 場づくりの教科書, pp.20-21, 芸術出版社, 2016.
- 16) 矢守克也: アクションリサーチ・イン・アクション-共同当事者・時間・データ, 新曜社, pp.164-167, 2018 年.

(Received September 30, 2022)

STUDY ON RELIVE EXPERIENCE ON CREATING A QUESTION OF THE CROSS-ROAD GAME

Naoto TANAKA and Hanami SAKAI

In order to manage a sustainable community in the midst of an aging society, international climate change, and frequent disasters, it is useful to inherit the wisdom and ingenuity of local lifestyles rooted in the local cultural climate. In this study, it is focused on the Crossroad Game, which is used in disaster prevention education and pre-disaster reconstruction, and examined the transmission of memory that emphasizes dialogue and makes it possible to relive the connection between the everyday and the extraordinary. The purpose of this study is to clarify the structure of the narrative field in the making of the Crossroad Game. The study area is Kumamoto City, Kikuchi City, and Asagiri Town in Kumamoto Prefecture, which have experienced various disasters in recent years. The results of the study indicate that the dilemmas that are the subject of the Crossroad Game are those that involve oneself and those that involve others, and that the dilemmas were born passively or actively, and that they may be inherited as dilemmas that anyone can relive, including the experiences of others.